

空の下で自然と共生しながら 庭を、街を、景観を美しく育てていく



2007年という新しい年を迎えるにあたり、
建築家・プロダクトデザイナーのトミタジュン氏、
インテリアコーディネーターの町田瑞穂ドロテア氏に
エクステリア建材事業本部長の永田等を交えて
晴海トリトンスクエアで行われた座談会。
次代を担う若きリーダーたちのワールドワイドな視点で
エクステリアへの想いや新たな方向性が模索され
熱く充実した話し合いが続きました。

とみた・じゅん
トミタ ジュン

建築家・デザイナー／一級建築士
東京電機大学講師
アティモント・デザイン研究所代表
1967年京都生まれ。
ニューヨーク大学アート学部
スタジオアート学科卒。
東京電機大学建築学科卒。

グリーン建築家・工業デザイナーとして
カリスマ的存在のエミリオ・アン
パースに師事。93年帰国して拠点を
東京に。99年オリジナルブランド「ア
ティモント」の活動開始。現在、建築、
インテリアのみならず、家具、時計、メ
ガネ、文房具からグラフィックまで
ポータルレスにデザイン活動中。
90年ニューヨーク大学モダンアート
展審査員特別賞、95年大阪グッドデ
ザイン賞、通産省グッドデザイン特別
賞、通産省グッドデザイン賞、96年米
国I.D.アニュアルデザインレビュー最
優秀賞などを受賞。
www.atimont.com

まちだ・みずほ・どろてあ
町田 瑞穂 ドロテア

インテリアコーディネーター／一級建築士
英国ロンドンにある「KLC スクール・オブ
デザイン」認定講師
スイス生まれ。
武蔵工業大学工学部建築学科卒。

日本の住宅メーカーをはじめ、米国の
設計事務所RTKLインターナショナル
リミテッドに勤務、「ガーデンウォーク幕
張」「ラ・フェット多摩」などを手がける。
2000年帰国後より、町田ひろ子アカ
デミーにて教育・商品企画・インテリア
デザインなどに関わる。
第1回東京ガーデンニングショー、第2回
国際バラとガーデニングショウ等「ビュ
ティフル・バリアフリー・ガーデン」をデ
ザイン出展。
www.machida-academy.co.jp

古い町屋空間は素晴らしいのに

永田 まずは、住環境における外部空間
について、最近の傾向を、専門家の視点
からお話しいただきたいのですが。

トミタ 僕は京都出身なのですが、いま
外国人の京都人気がさらに高まっている
状態です。理由は建築であり空間であ
り庭、とくに空間の魅力でしょうか。た
とえば古い町屋のエクステリアが素晴ら
しい。門を開けるとアプローチがあって、
ちょっとした屋根や腰掛け、垣根とい
うような演出がある。

ところが現在の日本は、経済的にはサク
セスしている国なのに、人に見せられる
空間を持っていない。海外に行くと感じ
ますが、経済的に貧しくても向こうの
住宅は本当に豊かです。でも日本は、
外観・街並み・コミュニティといった部分
が雑然としていて、楽しさや活気が感じ
られないんです。

「庭」と「家」はセットで考える

永田 気候風土と共生していく知恵が、
昔の日本建築にはありました。しかし現
在、冷暖房のなかで汗もかかず涙も流
さないひ弱な子どもたちができてしまっ
ているのではないかと。汗や涙を取り戻す
には、外部空間に触れること、家に外部

空間を取り込むことが必要だと思います。

町田 家を建てるのが住まいづくりで
はなく、環境も含めて「庭」と「家」を
セットで考えたほうがいいですね。分譲
住宅をつくる側も、家のまわりに借景と
しての庭を設けるとか、環境を提供する
様な開発を増やしてほしい。住宅団地も、
必ず公園を設けるといった提案をみんな
がしていかないと。お客様は予算の中で
家を広くすることばかり優先せず、「住ま
いは庭があって家がある」という発想を
持ってほしいですね。

永田 庭と家というお話が出ましたが、
「ホーム＝家＋庭」です。ハウスでもな
ければガーデンでもない「ホーム」を提
案しなければいけないし、ホームには絶
対に外部空間が必要だと思いますね。

キーワードは「ロハス」「アジア」

トミタ 僕が今気になっている2つの
キーワードは、どちらも外での生活がイ
メージにあります。

「ロハス」(=Lifestyle of health and
sustainability)は、「健康的で継続的
なライフスタイルをつくらうよ」という
動き。今トレンドとして盛り上がりつつ
ありますが、これは「ホーム」での活動
がメインになると思います。自然と共生
していくことで喜びを取り戻せる。

スローライフにも通じる、理にかなった
ライフスタイルだと思います。

もう一つは「アジア」。アジアのリゾ
ートにはバリのデイベッドのような、屋外
が屋内かわからない、あまい空間がた
くさんあります。屋外に屋根だけついた
2～3畳の空間が全部マットになってい
て、みんなで集まってしゃべったり寝
ころがったり…茶の間であり、ベッドル
ームであり、テラスみたいな空間です。

ちなみに僕の事務所のミーティングル
ームは半屋外空間です。ビルの屋上にテ
ントを張ってまして(笑)。冬は寒く夏は暑
いけれど、慣れると気持ちいいし、陰
な話をしていても屋外だと和むんです。

町田 日本でも、そのバリのデイベ
ッドのような空間は受け入れやすいでし
ょうね。最近は半屋外のレストランなど
も結構ありますし。何か暖まるものがセ
ットになっていれば、寒くても暖房して
膝掛けして楽しめそう。

永田 足湯なんか暖かそうですね。

トミタ 足湯レストラン(笑)、ぜひつく
てみたいなあ。夏は冷たい水で。

パブリックスペースを共有

永田 日本の街並みは、和風の隣に南
欧風の家がったり、いろいろなスタイル
がごちゃ混ぜで、住宅展示場のよう
ですね(笑)。

トミタ 取り入れることがうまいから、
取り入れすぎちゃう。全体的な街並みを
共有できる価値観が生まれたいですね。

町田 それでも最近、景観を考えると
いうムーブメントが生まれつつあるよ
うに思います。いきなりは難しいですが、
自分の住む街や通る道、あるいは庭を
共有しよう、自分の庭とパブリックな庭

を大切にしよう、という意識を少しず
つ持っていければ。

トミタ 生活のなかで緑を世話する時
間を、意識してつくることも必要かも
しれません。建物には個々のテイスト
があっても、それを緑でつなげていくと
統一感が出て、コミュニティが美しく
なりますから。緑を大切にすることは、
街が美しくなることなんです。

町田 イギリスの個々の家は、道路に
面した側はわずかなスペースしかなく
て、そこにプランターを置く程度です。
でも裏にプライベートガーデンがあ
って、そこでみなさんご自慢のお庭を
つくって、ある時期になると自分の庭
を披露します。日本でも、月島あたり
を歩いていると、発泡スチロールに植
えた「下町ガーデニング」が見られ
ます(笑)。こういう何か植えて飾り
たいという気持ちをみんなが持っている
のが大事なので、提案する側もそれ
を伝えていかなくては。

トリトン——都市に緑の生活空間を

永田 今回は、町田さんのアカデミー
がある晴海トリトンスクエアにきてい
ます。ここは都心の商業地なのに、豊
かな自然を感じる和みのスペースにな
っていますね。

町田 最初の構想は全部クローズし
た普通のオフィスビルで、緑もメンテ
ンスフリーの常緑樹を植えるのが基本
でした。最初はこんな沿岸地域で緑は
育たないと、大反対されました。そ
れが今となっては、実のなるものや落
葉樹など770樹種。メンテナンスの人
を1人常駐させるなどのシステムもつ
くりながら実現させていきました。前
例がなかったので、何事も戦いの連
続でしたね。

永田 これで前例ができたので、今後は

トミタジュン氏
「建物を緑でつなげていくと統一感が出て、
コミュニティが美しくなります。
緑を大切にすることは、街が美しくなることなんです」

